

株式会社フェローテック

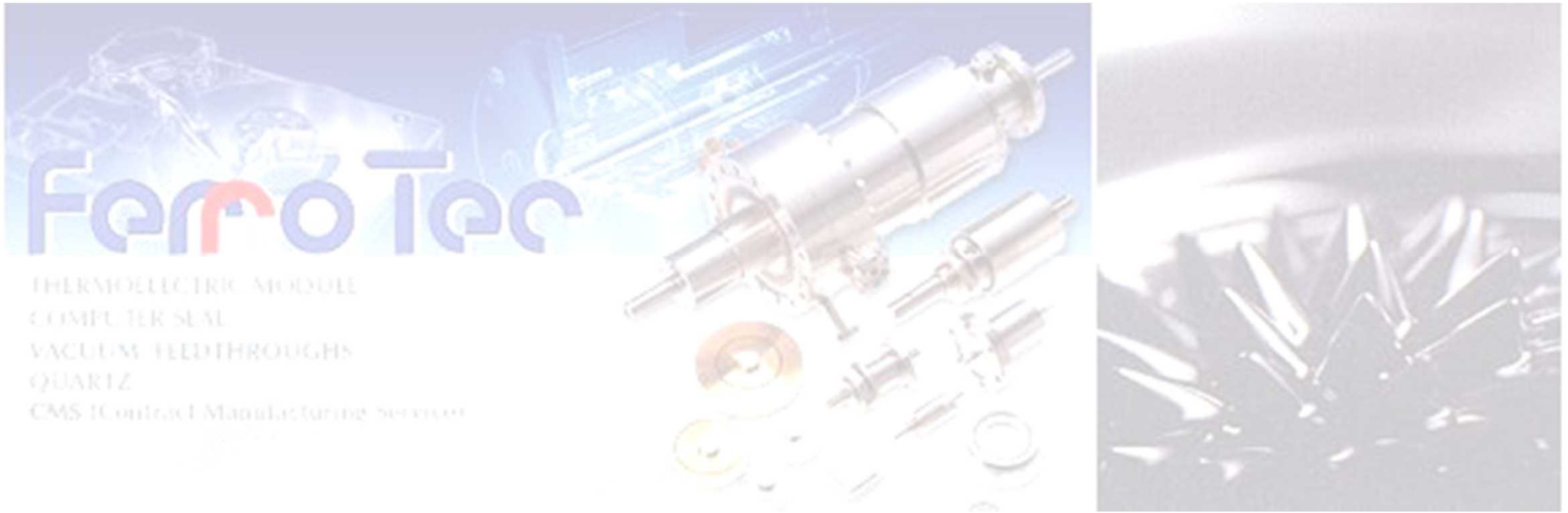
2014年3月期第2四半期 決算説明会資料

2013年11月27日

(ジャスダック6890)

<http://www.ferrotec.co.jp/>

1. 当期連結決算においては、連結子会社・持分法適用会社は2013年1月～6月末の業績、フェローテック単体は、2013年4月～2013年9月末の業績を連結しております。
2. 本資料は、2014年3月期第2四半期決算の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社株式の購入や売却等を勧誘するものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願いいたします。
3. 本資料は2013年9月27日現在のデータに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり予告なしに変更されることがあります。



2014年3月期第2四半期業績報告

連結決算サマリー



百万円	2013年3月期 2Q累計		2014年3月期 2Q累計		前期比	
	金額	売上比(%)	金額	売上比(%)	金額	増減率(%)
売上高	20,048	100.0	20,229	100.0	181	0.9
売上原価	16,413	81.9	15,189	75.1	△1,224	△7.5
売上総利益	3,635	18.1	5,040	24.9	1,405	38.7
販売管理費	5,788	28.9	4,880	24.1	△908	△15.7
営業利益	△2,153	-	159	0.8	2,312	-
営業外収益	86	0.4	1,257	6.2	1,171	1,361.6
営業外費用	644	3.2	886	4.4	242	37.6
経常利益	△2,711	-	530	2.6	3,241	-
特別利益	79	0.4	659	3.3	580	734.2
特別損失	2,909	14.5	6	0.0	△2,903	△99.8
四半期純利益	△6,157	-	694	3.4	6,851	-
設備投資額	1,820	-	1,640	-	△180	△9.9
減価償却費	1,573	-	1,981	-	408	25.9

注 為替レート2013/3期2Q→2014/3期2Q : 米ドル 79.78円→95.90円 人民元 12.65円→15.53円(期中平均レート)

連結決算サマリー



百万円	2014年3月期 2Q	
	金額	売上比(%)
売上高	20,229	100.0
売上原価	15,189	75.1
売上総利益	5,040	24.9
販売管理費	4,880	24.1
営業利益	159	0.8
営業外収益	1,257	6.2
営業外費用	886	4.4
経常利益	530	2.6
特別利益	659	3.3
特別損失	6	0.0
税前利益	1,182	5.8
法人税等	480	2.4
四半期純利益	694	3.4

低価法による評価損等の発生が無く前年比原価率改善

事業構造改革プランで改善
多額の貸倒引当金の発生が無く改善

営業外収益に急激な円安による為替差益
1,100百万円、営業外費用に太陽電池事業
縮小に伴う追加発生費用を462百万円計上

投資有価証券売却益645百万円含む

セグメント別売上高および営業利益

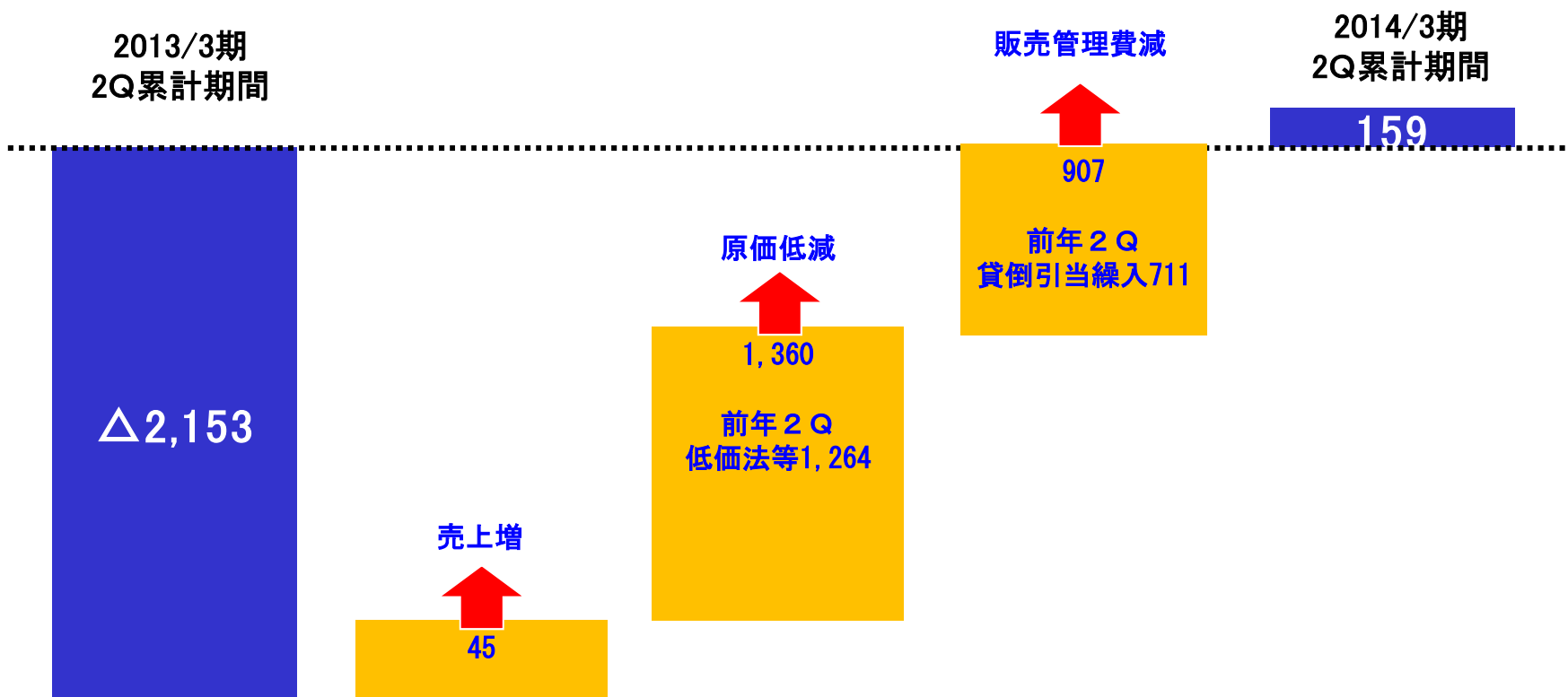


売上高 (単位:百万円)	2013年3月期 2Q		2014年3月期 2Q		前期比	
	金額	売上比(%)	金額	売上比(%)	増減額	増減率(%)
装置関連	9,509	47.4	10,189	50.4	680	7.2
電子デバイス	2,195	11.0	2,801	13.8	606	27.6
太陽電池	7,022	35.0	5,680	28.1	△1,342	△19.1
その他	1,320	6.6	1,557	7.7	237	18.0
合計	20,048	100.0	20,229	100.0	181	0.9

営業利益 (単位:百万円)	2013年3月期 2Q		2014年3月期 2Q		前期比	
	金額	利益率(%)	金額	利益率(%)	増減額	増減率(%)
装置関連	140	1.5	77	0.8	△63	△45.0
電子デバイス	115	5.2	249	8.9	134	116.5
太陽電池	△2,393	-	△111	-	2,282	-
その他	20	1.5	△24	-	△44	-
全社消去	△37	-	△31	-	6	-
合計	△2,153	-	159	0.8	2,312	-

営業利益：前期比 + 2,312 百万円の主な要因

(単位:百万円)



連結貸借対照表 ～資産～



(百万円)	2013/3期 期末	2014/3期 9月末	増減額
流動資産	34,271	39,165	4,894
現金・預金	7,373	8,215	842
受取手形及び売掛金	15,235	15,537	302
たな卸資産	9,536	11,604	2,068
固定資産	32,072	33,979	1,907
有形固定資産	24,914	27,523	2,609
建物及び構築物	5,409	5,865	456
機械装置・運搬具	10,165	11,831	1,666
工具、器具、備品	5,980	6,519	539
土地	704	700	△4
無形固定資産	1,683	1,585	△98
のれん	769	630	△139
投資その他資産	5,473	4,870	△603
資産合計	66,343	73,144	6,801

【流動資産増加の主な要因】

主に、現預金、棚卸資産の増加によります。

主な棚卸資産

真空シール:712百万円、石英:872百万円、
セラミックス:796百万円、サーモ:1,491百万円
太陽電池用製造装置:3,747百万円
太陽電池用シリコン製品:1,228百万円

【有形固定資産増加の主な要因】

有形固定資産は大部分が中国子会社が保有しており、中国元に対する円安(13.91→16.05 15.3%)のため、為替換算により増加、太陽電池関連事業でOEMに特化した結果、顧客より要求された固定砥粒ワイヤソーの設備投資等による。

【無形固定資産の状況】

のれん償却額:

上期実績:212百万円

下期予定:159百万円

連結貸借対照表 ～負債及び純資産～



(百万円)	2013/3期 期末	2014/3期 9月末	増減額
流動負債	27,243	30,884	3,641
支払手形及び買掛金	8,554	9,405	851
短期借入金	9,667	12,055	2,388
1年内返済予定の 長期借入金	2,867	2,691	△176
固定負債	8,660	7,498	△1,162
長期借入金	5,836	4,822	△1,014
負債合計	35,904	38,382	2,478
純資産	30,439	34,762	4,323
株主資本	29,366	29,906	540
その他の包括利益累計額	399	4,111	3,712
少数株主持分	673	744	71
負債・純資産合計	66,343	73,144	6,801

【流動負債増加の主な要因】

主に短期コミットメントライン契約に基づく短期借入れにより増加しております。

【有利子負債の状況】 ()内は13/3期末時点の数値

短期借入+1年内長期借入	14,746百万円	(12,534)
長期借入+社債等	4,822百万円	(5,836)
合計	19,568百万円	(18,370)
【ネット有利子負債	11,353百万円	(10,997)】

【純資産項目】

純資産の主な変動内訳:

四半期純利益	: 694百万円
配当金	: △154百万円
為替換算調整勘定	: 3,995百万円

キャッシュフロー計算書



(百万円)	2013/3期 2Q	2014/3期 2Q
営業活動によるキャッシュフロー	△157	2,013
税引前当期純利益	△5,541	1,182
減価償却費	1,573	1,981
為替差損益(△:益)	△54	△732
事業構造改革引当金の増減(△:減少)	2,396	462
売上債権の増減(△:増加)	△321	3,430
たな卸資産の増減(△:増加)	908	△942
仕入債務の増減(△:減少)	△102	△932
その他	984	△2,436
投資活動によるキャッシュフロー	△2,024	△1,761
有形固定資産取得による支出	△1,820	△1,640
有形固定資産の売却による収入	14	31
投資有価証券、有価証券の取得による支出	△1	△67
投資有価証券、有価証券の売却による収入	-	760
その他	△217	△845
財務活動によるキャッシュフロー	△71	115
短期借入金の増減額	175	1,579
長期借入れによる収入	2,000	300
長期借入金の返済による支出	△1,572	△1,573
配当金の支払額	△607	△152
その他	△67	△39
現金及び現金同等物の増加額	△2,100	841
現金及び現金同等物の期首残高	9,560	7,373
現金及び現金同等物の期末残高	7,460	8,215

【営業CFの状況】

税前利益+減価償却:	3,163百万円
事業構造改革引当金増加による営業CFの増加:	462百万円
売上債権減少による営業CFの増加:	3,430百万円
棚卸資産増加による営業CFの減少:	△942百万円
仕入債務減少による営業CF減少:	△932百万円

【投資CFの状況】

有形固定資産取得支出の主な内容
・上海子会社: 690百万円
・杭州子会社: 392百万円
・銀川子会社: 169百万円

【財務CFの状況】

短期借入増減
・主に短期コミットメントライン契約に基づく借入
長期借入金返済
・グループ全体の約定返済

通期業績見通し



(百万円)	2013/3期	2014/3期	2014/3期	2014/3期と各数値の比較	
		期初予想	修正予想	2013/3期比(%)	期初計画比(%)
売上高	38,424	42,000	42,000	9.3	0.0
営業利益	△3,608	1,000	1,000	-	0.0
経常利益	△3,465	700	850	-	21.4
当期純利益	△6,532	450	1,000	-	122.2
設備投資額	3,706	1,500	2,000	△46.0	33.3
減価償却費	3,321	3,600	3,900	17.4	8.3

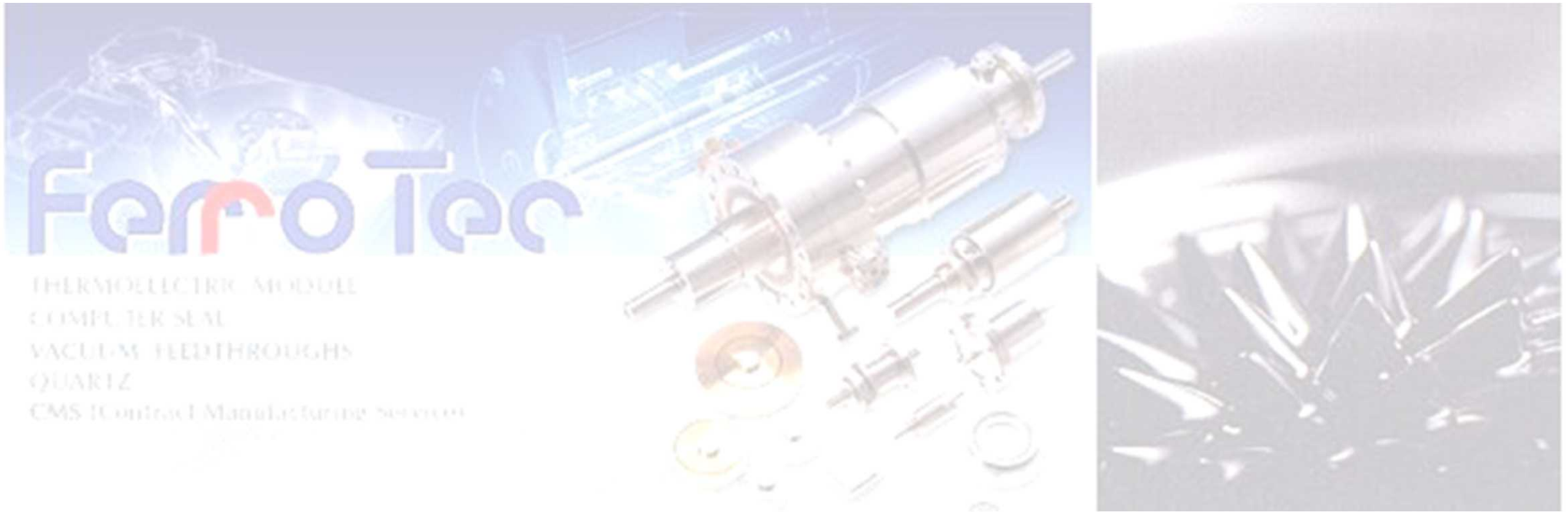
注 為替レート2013/3期→2014/3期予想レート：米ドル 80.1円→95.0円 人民元 12.7円→15.0円

設備投資は、大規模設備投資未計画、前期末設備未払金を考慮したCFベースの数値です。

通期業績見通し(セグメント別売上高)

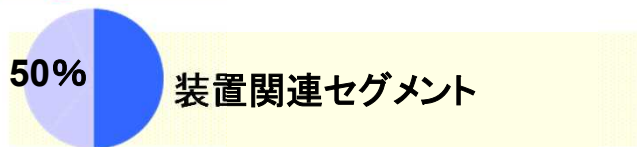


(百万円)	2013/3期	2014/3期(計)	前期比 (%)
装 置 関 連	18,867	22,305	18.2
真空シール	4,686	5,340	14.0
石英製品	3,420	4,087	19.5
セラミックス	4,108	4,350	5.9
EBガン・LED蒸着装置	2,724	3,529	29.6
ウエーハ加工	3,930	4,999	27.2
電 子 デ バ イ ス	4,563	5,282	15.8
サーモモジュール	4,126	4,764	15.5
磁性流体・その他	438	518	18.3
太 陽 電 池	12,345	11,173	△9.5
石英坩堝	2,709	3,952	45.9
太陽電池用シリコン	5,509	6,268	13.8
シリコン結晶製造装置	2,280	150	△93.4
セル・その他	1,847	804	△56.5
そ の 他	2,648	3,240	22.4
合 計	38,424	42,000	9.3



セグメント別の状況と今後の見通し

セグメント



真空シール



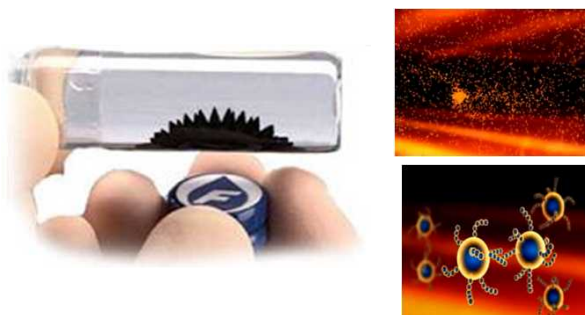
石英製品



セラミックス製品



磁性流体



サーモモジュール



パワー半導体用基板



太陽電池用シリコン(OEM)

単結晶



多結晶



PV用ウエーハ



消耗品群

石英坩堝



カーボン坩堝



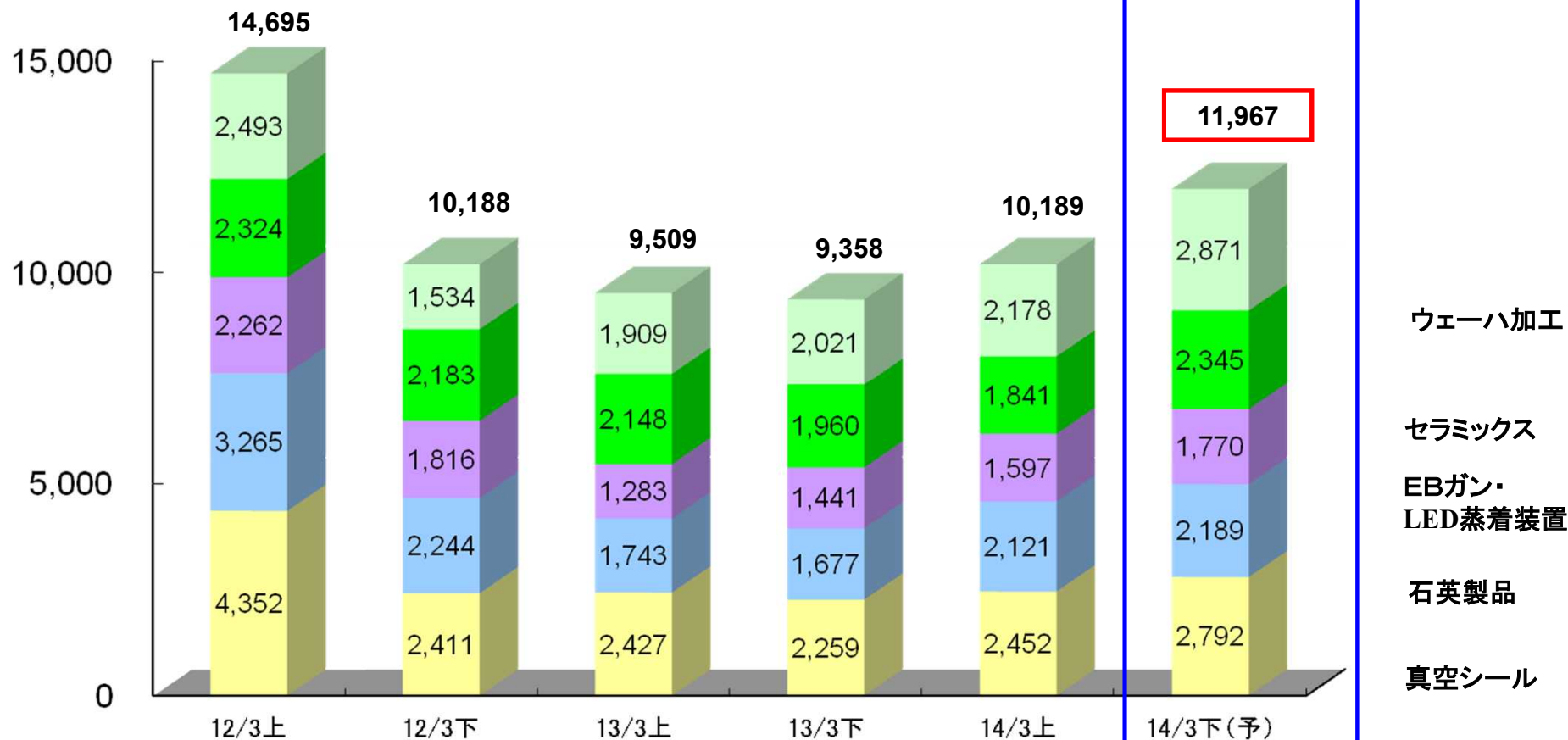
角槽坩堝



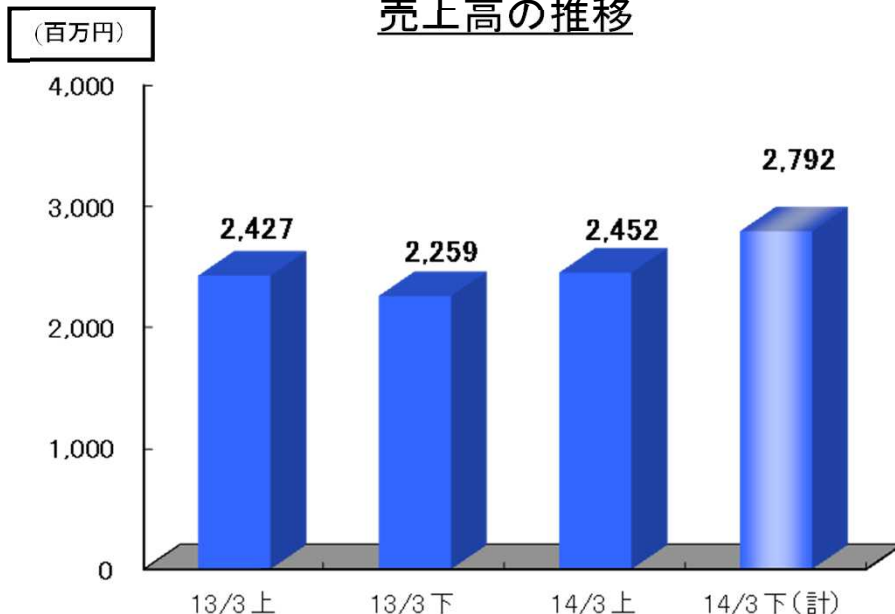
装置関連セグメント



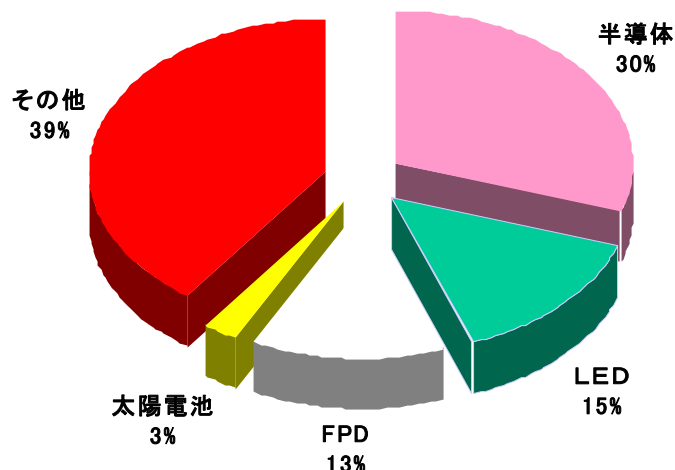
売上高
(百万円)



売上高の推移



真空シール関連事業の販売先業種別シェア



注) その他: 産業用真空装置、航空、医療、科学など

1. 14/3上期の業績

- FPD市場は、中国でのTV用大型液晶、モバイル用高精細中小型液晶及び有機EL用製造装置への設備投資が一巡
- 半導体市場は、大手企業で投資が再開されたが、上半期から、規模縮小や延期があり力強さに欠ける
- ロボットメーカー向け、やや減少傾向

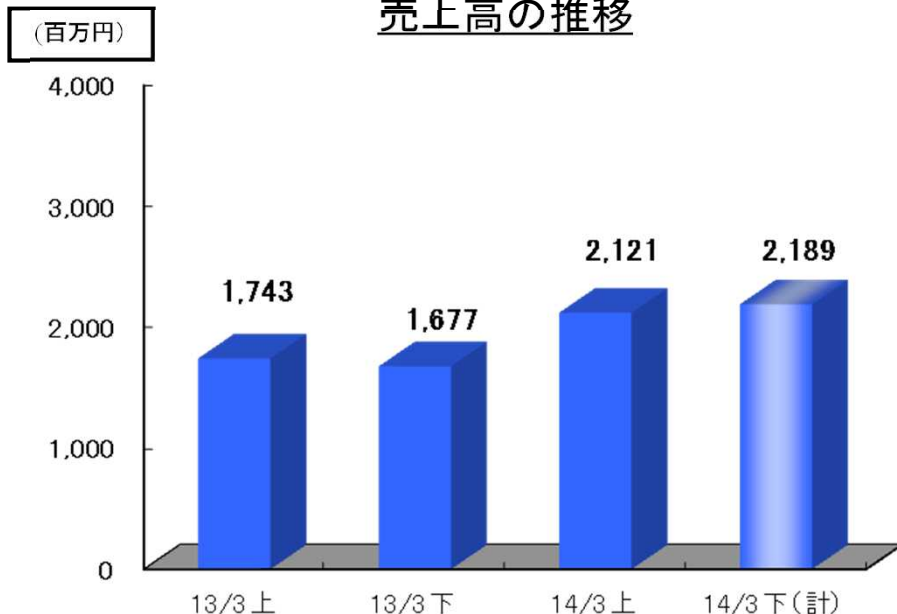
2. 14/3下期の見通し

- FPD市場は大型投資は望めず、モバイル投資が鍵となる
- 半導体市場は伸長する見込み、受注増を期待
- 中国進出企業からの受託生産が堅調に推移する見込み

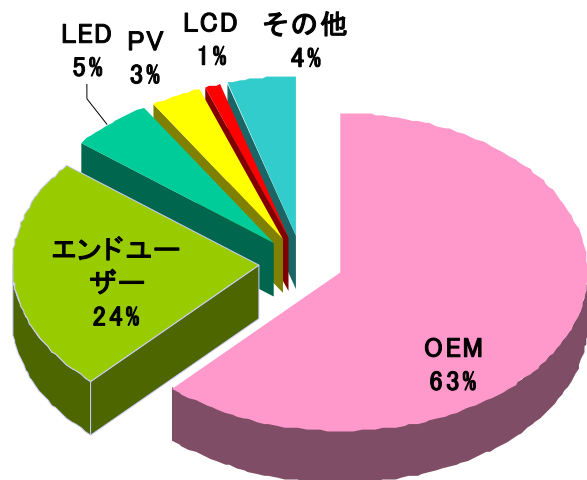
《施策》

- 受託装置サブアッセンブリーの需要を喚起
- エンジニアリング・アフターサービスの提供

売上高の推移



石英製品の販売先業種別シェア



1. 14/3上期の業績

- 上半期前半までは軟調に推移し、上後半からOEM向けから回復に転じる
- 米国大手OEM(SWP需要)2社からの受注が徐々に回復
- 国内・アジアICメーカーの投資決定まで想定より時間を要した
- LED市場、大きな変化なく横ばいで推移
- 値下げ圧力が厳しく、高付加価値の超高純度製品の価格下落と台湾での拡販の為の評価品で利益圧迫

2. 14/3下期の見通し

- 米国・国内(batch)大手OEMからの受注が回復見込
- 国内・アジア企業の投資再開で受注増、短納期要求増
- 超高純度製品の中国工場認定による生産capacity増
- 引合い増加により、総じて堅調となる見込み

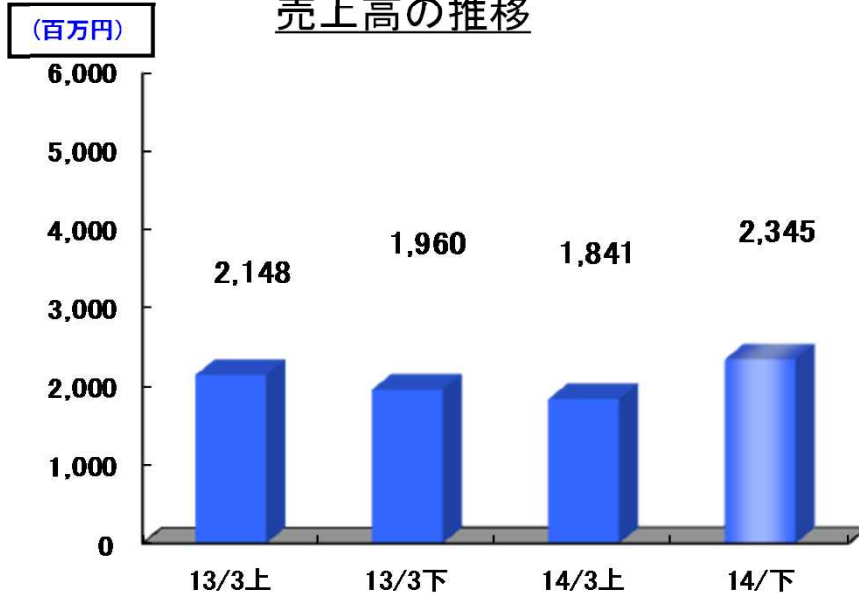
《施策》

- 中国生産移管を拡大し、コスト低減を図る
- 石英とシリコンパーツの次世代・次機種製品対応・販売
- 台湾企業への営業・短納期・安定品質・カスタマイズ対応

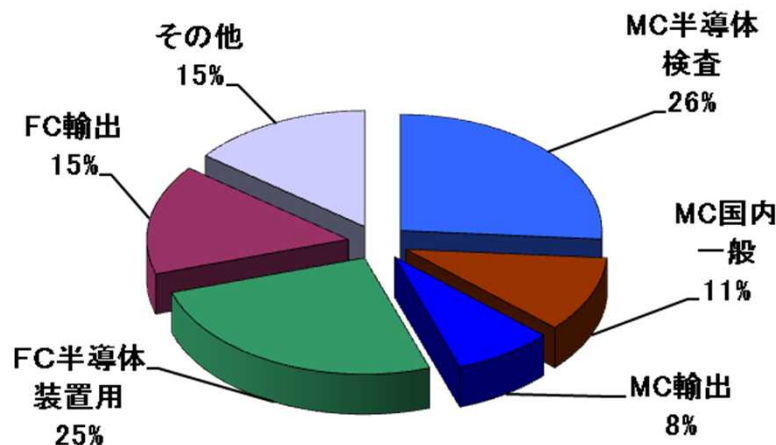
セラミックス製品の状況と今後の見通し



売上高の推移



セラミックス製品の製品別販売シェア



注) FC: ファイン・セラミックス、 MC: マシナブル・セラミックス(ホットベール)

1. 14/3上期 (1-6月)の業績

マシナブル セラミックス “ホットベール”

- ・Memory(N/ Flash)・Non-Memory(Logic)とも、民生用電子機器の需要低迷で受注販売共厳しい状況が続いた
- とりわけ、半導体検査用治具向内外販売は、High End SmartPhone用 Deviceの生産調整で大きな影響を受けた。

ファイン セラミックス

- ・微細化投資は年初より台湾を中心に動き始め、受注面は早春より回復局面へ。海外向販売は好調を維持、全体で前期並みの売上を確保

2. 14/3下期 (7-12月)の見通し

マシナブル セラミックス “ホットベール”

- ・Non-Memory高機能Deviceの生産は依然として低水準であるが、初冬より次世代Deviceの検査用治具向け受注の見込み
- ・N/ Flashは3Q末より緩やかな回復基調となりつつある
- ・一般品は、評価中の米国向け医療用関連部品が量産へ、大量受注

ファイン セラミックス

- ・下期に入り、Memoryメーカー・Foundryの先端投資(微細化・3D化)が想定以上に急回復、内外装置メーカー各社からの受注急増
- ・海外向シェアアップも着実に展開中
- ・売上は、上期を大幅に上回る見込み

3. 継続販売方針

〈マシナブル〉

- ・Wafer回路検査治具の新規顧客・用途のGlobal展開拡販(営業再強化)
- ・一般品の新規顧客・用途のGlobal展開拡販(営業再強化)

〈ファインセラミックス〉

- ・米国、アジアに加え、欧州市場の新規顧客・用途開拓営業継続中

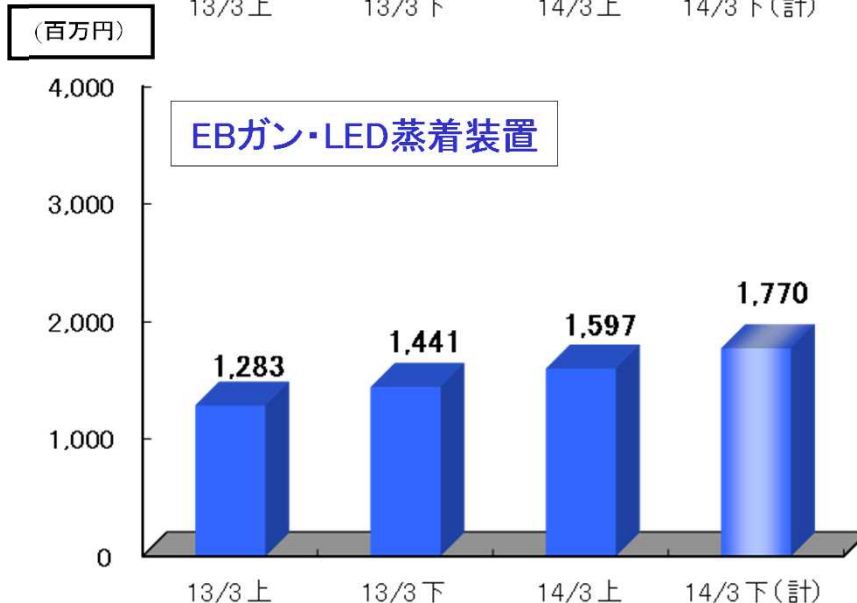
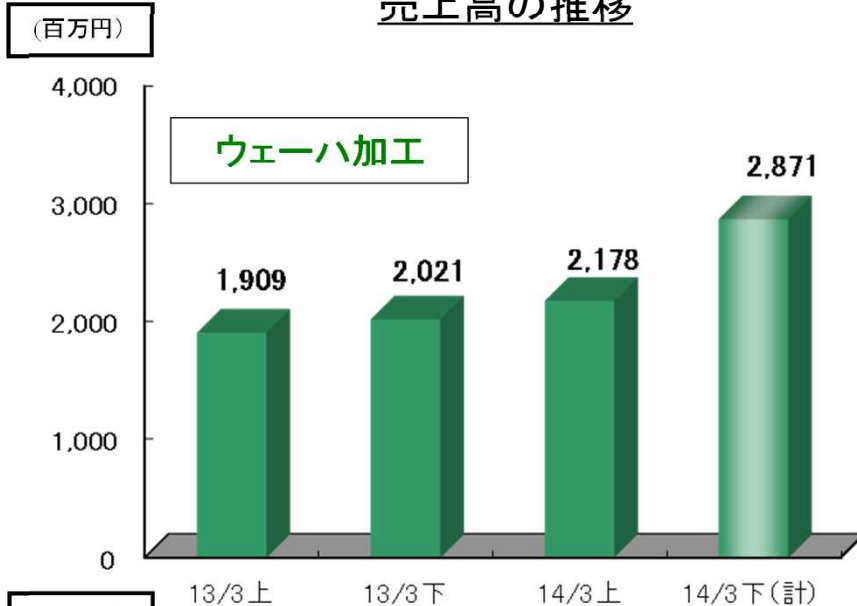
〈共通〉

- ・新材料、新加工技術開発による拡販と販売競争力の強化

ウェーハ加工と蒸着装置の状況と見通し



売上高の推移



半導体ウェーハ:

1. 14/3上期の業績

- 全般に市況が回復、特に自社ブランド拡大見込み
- 日本市場が前半低迷、後半から回復の兆しとなる
- 顧客ニーズに応じて対応策を講じる

2. 14/3下期の見通し

- 市況が回復から自社ブランド品の上昇を見込む
- 中国・台湾市場が依然として強い。後半は不透明
- ウエハー品種を増やし、売上増を見込む

《施策》

- 量産拡大に対応した体制を整備
- 設備増強投資を検討中 技術・品質等サービス体制を整備

EBガン・蒸着装置:

1. 14/3上期の業績

- LED投資一巡で減少、モバイル用発信チップの引合いあり

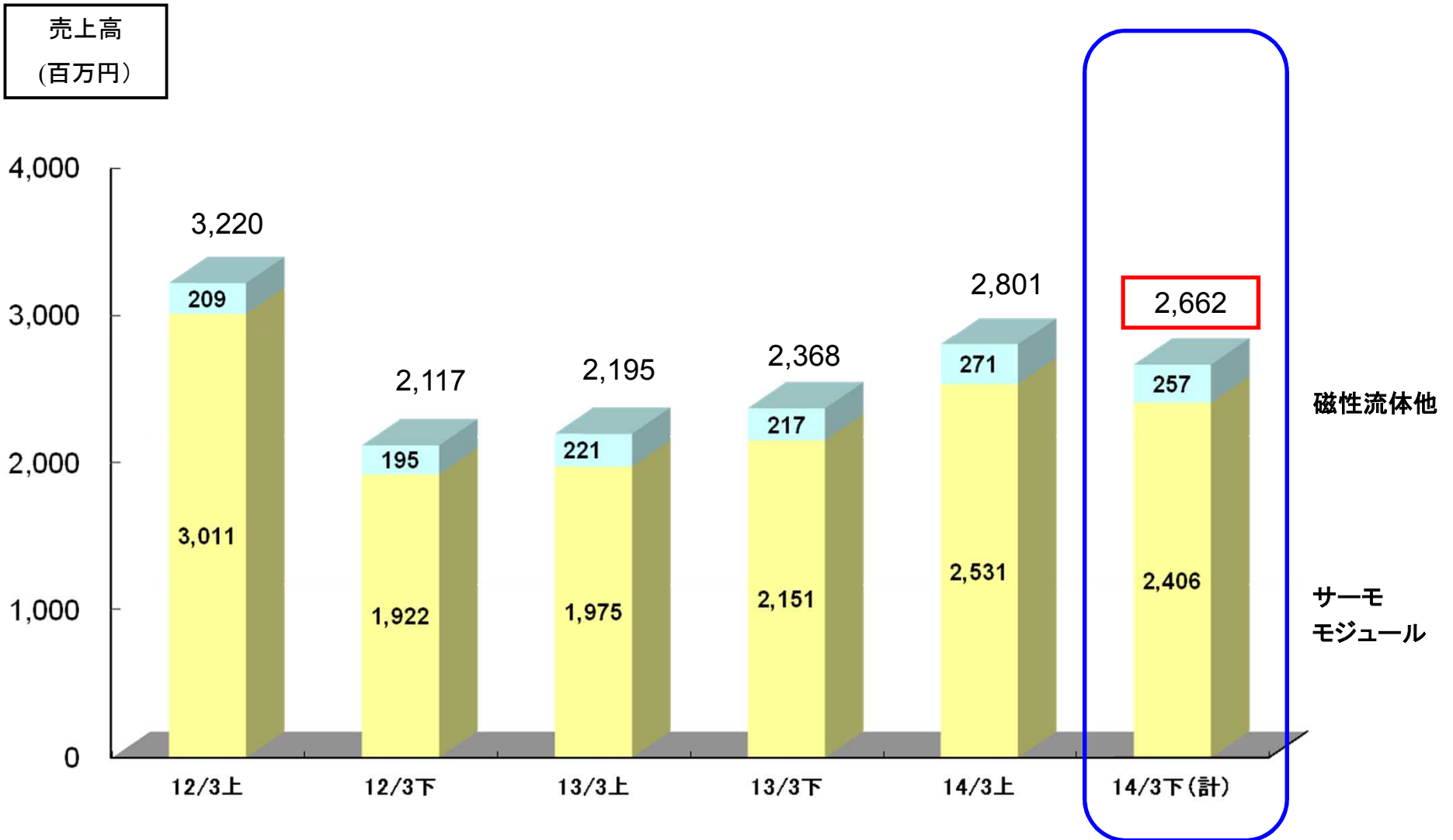
2. 14/3下期の見通し

- 下期後半より需要回復から売上増加の見込み

《施策》

- 光学市場に的を絞り、受注活動開始
- 新型機種投入

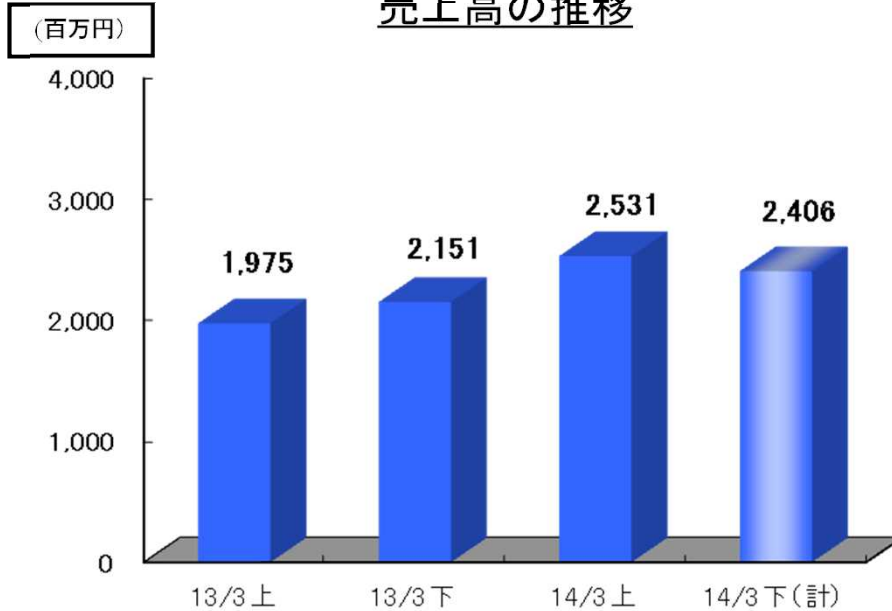
電子デバイスセグメント



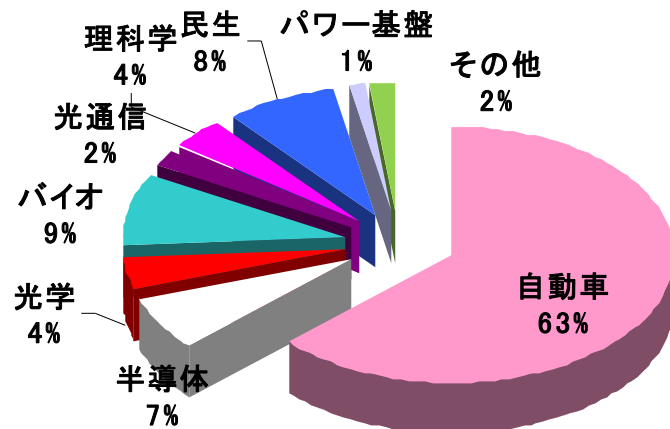
サーモモジュール製品の状況と今後の見通し



売上高の推移



サーモモジュールの業種別販売先シェア



1. 14/3上期の業績

自動車温調シート

- ・新規採用機種の上上げプログラムで増加に転じる

その他の産業

- ・バイオ機器、半導体、光学用は底堅く堅調
- ・電気シェーバー、浄水器等の新規採用で民生用増加
- ・パワーデバイス用基板を発売・量産開始

2. 14/3下期の見通し

自動車温調シート

- ・自動車販売好調から下期も好調の見込み

その他の産業

- ・バイオ機器、光学用は横ばいの見込み
- ・電気シェーバー、美容家電、浄水器は好調、エアコン向けも堅調で民生用好調の見込み
- ・パワーデバイス用基板、採用機種、販売増加

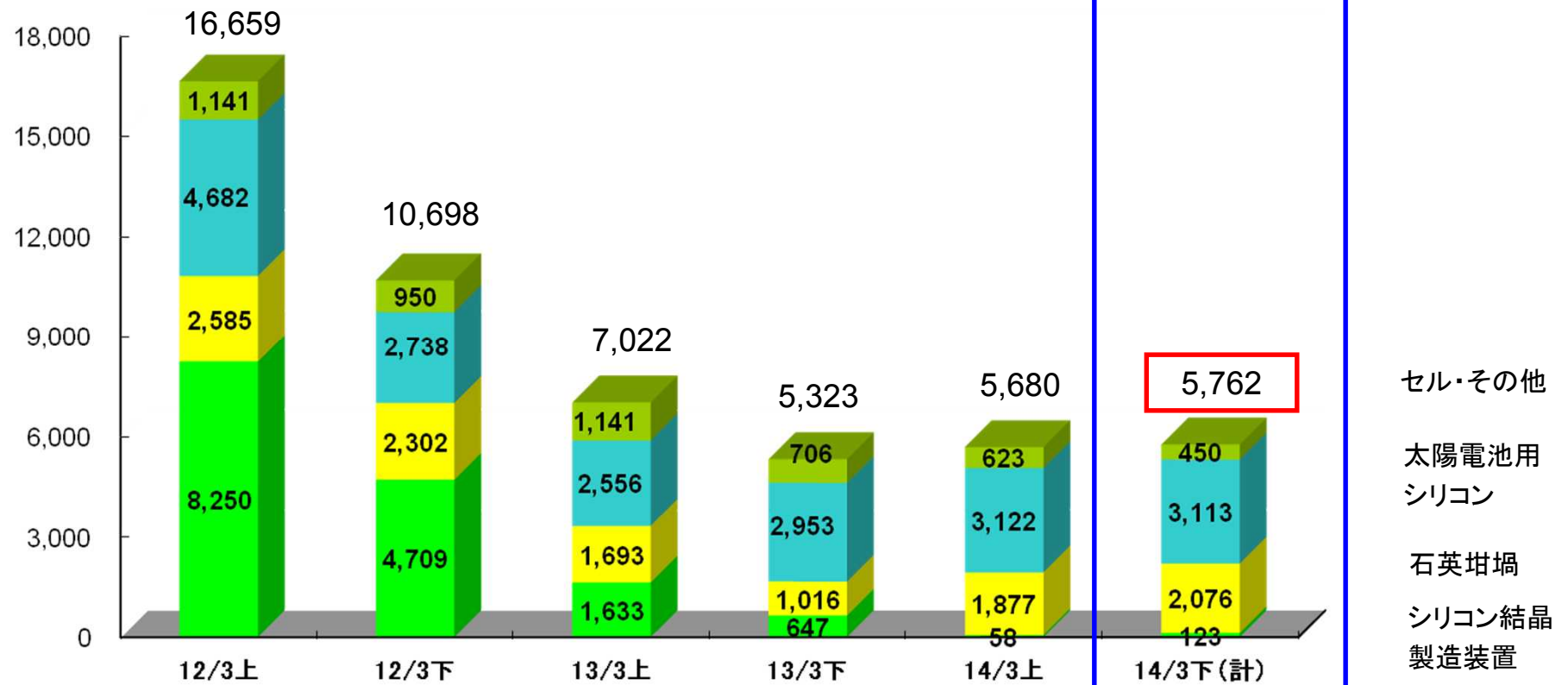
《施策》

- ・米国、欧州市場のシェア拡大に注力する
- ・パワーデバイス用基板の営業を強化する。
- ・生産効率を向上し、更にコスト競争力をつける

太陽電池セグメント



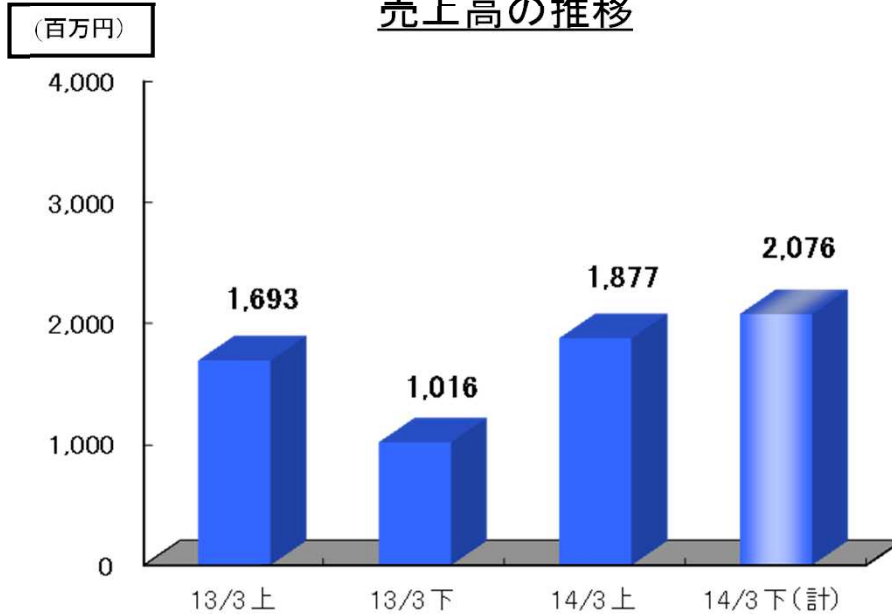
売上高
(百万円)



坩堝の状況と今後の見通し



売上高の推移



単結晶用石英坩堝



多結晶用角槽

1. 14/3上期の業績

- PV用途需要は落ち着くも値下げ圧力は依然強い
- 後半から価格は底打ちし、数量は増加傾向となる
- 小口径半導体用途向けにシェア拡大に挑戦
- 多結晶用の角槽は台湾顧客向けに順調に増加

2. 14/3下期の見通し

- 需要は増加傾向が続く見込みも価格により変動も
- マルチ引上げから1本引きへ顧客ニーズが変化
- 価格は値戻しの交渉開始、数量増加率は緩やか
- 半導体用途向け販売増を引続き進める
- 多結晶用の角槽は数量増加の見込み

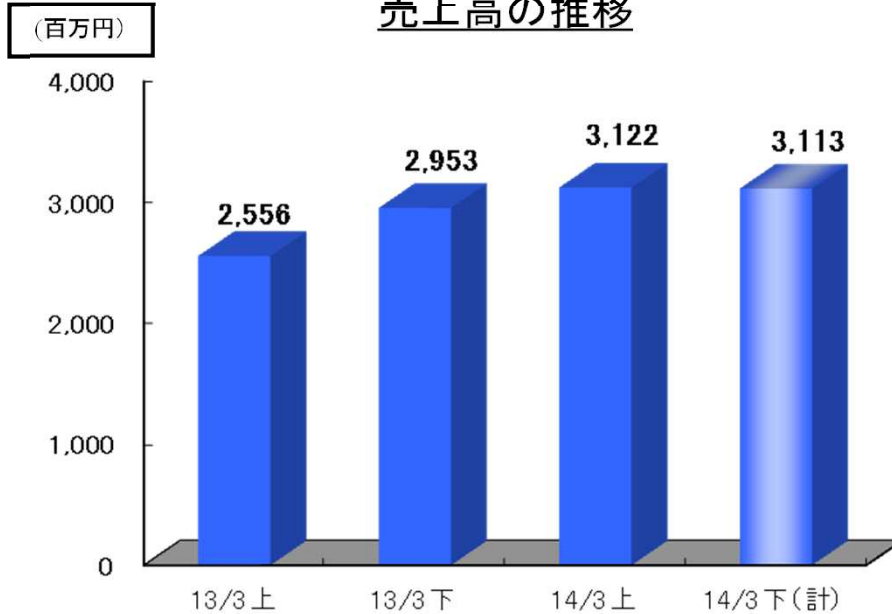
《施策》

- 長寿命品の投入にて価格転嫁を図る
- 銀川工場でコスト低減
- 国内半導体Siメーカー向け22~24”での認定取得
品質の造り込み、生産ラインの整備

太陽電池用シリコンの状況と今後の見通し



売上高の推移



単結晶
インゴット



多結晶
インゴット



シリコンウェーハ

1. 14/3上期の業績

- OEMに特化し、需要は比較的堅調で引合も増加
- 需要家の要求は高性能かつ低価格製品
- 欧州の成長は止まったが、日本・中国・米国は旺盛
- 価格は横ばいで推移し、国内向けは競争激化で軟調

2. 14/3下期の見通し

- 新規OEM引合先の認定へ向けて評価中
- 顧客ニーズは、高変換率の多結晶及びN型単結晶
- 東欧、中東、南アメリカなど新興地域でPV需要始る
- 価格は低調な現状レベルで推移と予想

《施策》

- 結晶製造を銀川工場へ移管、工場認定取得
- 固定砥粒切断ウエーハの技術アップで差別化
- N型単結晶の性能向上で受注確保